＜仙台国税局長賞＞

私達を豊かにする町の税金

小野町立小野中学校　３年　佐藤　美音

私は自分の住む町は何もないところだと思っていました。しかし、そんな考えが一変した出来事がありました。

町長や教育長とランチミーティングをする機会です。町をよくしていくために、中学生目線から町に対しての要望や質問を聞きたいと言われ、私達はいくつかの要望を投げかけました。私は、高齢者に対してタクシーやバスなどの公共交通機関を安くしたり、補助金を出したりしてほしいという要望をしました。私は高齢の祖父母と一緒に住んでいて、私の家から一番近くのスーパーまで車で 20 分かかります。買い物に行くのに車は必要不可欠ですが、最近高齢者の交通事故のニュースを見かける度に祖父母が事故を起こしてしまわないかとても心配になります。私の町は 65 歳以上の割合が 35％と日本全体の平均に比べて高いため、助かる人はたくさんいるのではないかと考えました。しかし驚いたのですがこのような制度はもうすでにあったのです。申請をすると 70 歳以上の人はタクシーを１回の利用につき 800 円を超えた分は町が支払ってくれるという、まさに私が求めていた制度でした。

町長が言うには町民が納めている税金からだそうです。毎年、父母や祖父母が町民税やそのほかの税金のことについて話していたなと思い出しました。

「大変だけど、大事なもんだからな。」

祖父はいつの日かそう言っていました。同じくミーティング

に参加した友達は、
「この町は周りの市町村に比べて税金が高いって家族が言ってた。その分私達は何か恩恵があるのかな。」
と言っていました。そこで身近な税金の使われ方って何だろうと疑問が湧いてきました。この疑問を解決するために私は町の事をもう一度よく考え直してみることにしました。町民体育館やそこに隣接しているプールは町内の中学生以下は無料なこと、町の公共施設にはフリーWiFi が設備されていること、町内の飲食店や小売店を応援するために商品券を配付していること。また、私達小中学生は漢字、英語、数学検定を毎年無料で受けられたり、１人１台のタブレットや各教室に設置されているプロジェクターなどの ICT 機器を活用した学習ができたりします。これまで当たり前のように思っていて気付かなかったけど、わたしの町は町民の生活が豊かになる制度がたくさんある町だと思い直しました。

そしてそれらを支えてくれている一つが税金だと分かりました。町が町民のために税金でたくさんのことをしてくれていることが分かって嬉しくなった反面、そのことが私や家族、友達を含めあまり広く知られていないことが残念だと思いました。

私は未来の納税者として、今ある様々な制度に感謝しながら大切に勉強し、町の良さや税金の良さを伝えていきたいです。